

## 「国際原子力機関・地域協力協定に基づくプロジェクト」参加報告

水垣 滋

### 1. はじめに

国際原子力機関（International Atomic Energy Agency; 以下、IAEA）の原子力科学技術に関する研究、開発及び訓練のための地域協力協定（Regional Co-operative Agreement for Research, Development and Training Related to Nuclear Science and Technology; 以下、RCA）に基づくプロジェクトRAS7031「海面上昇及び気候変動に対する沿岸部の地形及び生態系の脆弱性評価（Assessing the Vulnerability of Coastal Landscapes and Ecosystems to Sea-Level Rise and Climate Change）」の第1回連携会議が2019年2月25日から3月1日にかけて、マレーシア・クアラルンプールにて開催されました。筆者は、この会議に参加しましたので、報告します。

### 2. プロジェクトの概要

地域協力協定に基づく技術協力プログラムは中東（ARASIA）、ラテンアメリカ（ARCAL）、アフリカ（AFRA）およびアジア・太平洋（RCA）の4地域で実施されており、アジア・太平洋地域は22か国が参加しています。本プロジェクト（RAS7031）は、アジア・太平洋諸国を対象に、沿岸地形・生態系の海面上昇・気候変動に対する脆弱性および回復力の評価に資するために、専門家会合やトレーニングコース等の活動を通して、放射線測定技術や同位体技術に関する能力を強化することを目的としています。このプロジェクトの提案国（Lead Country; 以下LC）はオーストラリアで、参加国はバングラデシュ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、マレーシア、ミャンマー、ニュージーランド、パキスタン、パラオ、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナムの16か国です。プロジェクト期間は2019年～2022年の4年間で、今回の第1回連携会議をキックオフとしてスタートしました。

### 3. 第1回連携会議

会議は、マレーシア・クアラルンプールのセリ・パシフィックホテルにおいて5日間にわたって開催され、プロジェクト参加国の代表者（インドネシアは急遽欠席）とIAEAのRCA担当者が参加しました（写真-1）。

初日は、IAEAのDr. Sinh Van Hoangより、IAEA、RCAの取り組みに関する概要・趣旨説明がありました。次いで、LCのKerrylee Rogers准教授よりプロジェクト概要について説明がありました。その後、各国から国勢・地勢・沿岸域に関する地域的課題や分析技術等に関する報告が、2日間にわたって行われました。



写真-1 会議参加者の集合写真



写真-2 グループディスカッションの様子

筆者は1日目に発表時間が割り当てられ、日本における海岸侵食や海面上昇に対する沿岸域の脆弱性、流砂系の総合的な土砂管理に関する取り組みについて紹介しました。また、山地から海域への土砂動態に関する研究の重要性を説明し、放射性同位体を用いた土砂供給源や土砂堆積年代の推定手法についても紹介しました。

2日目の後半は、各国の抱える地域的課題に基づいて2つのテーマ（マングローブ林、海岸侵食と土砂・有機物の供給源）に分かれてグループディスカッションが行われました。筆者は、インド、ニュージーランド、パラオ、スリランカ、ベトナムの代表者とともに、海岸侵食と土砂・有機物の供給源をテーマとしたグループに入り、具体的な課題解決における技術協力の可能性について話し合いました（写真-2）。

3日目の現地見学では、クアラルンプールの南南東130kmの沿岸部、マラッカ州にあるウミガメ保護センター（Turtle Hatchery Centre）を訪れました。この周辺の海域は、世界的に絶滅危惧種であるウミガメの貴重な生息地となっており、ウミガメの産卵や孵化等に関する一連の保護活動について説明を受けました。産卵環境である砂浜の維持・保全の重要性を再認識しました。

4日目は、これまでの議論を踏まえて、各国の地域活動計画の修正を求められ、修正された各国レポートの発表を再び行いました。その上で、本プロジェクトで必要とされるトレーニングコースの内容について、意見の集約がなされました。5日目は、前日の各国レポートの最終確認を行い、今後の会議やトレーニングコースの開催時期・候補地について話し合いがなされ、会議の日程を終えました。

#### 4. おわりに

筆者にとってこのような会議への参加もマレーシアへの渡航も初めてであり、出発まではかなり緊張していました。しかし、会議開催中は参加国の代表者と様々な交流を深めることができ、その緊張も徐々に解かれていきました。会議の準備を整えてくださったPutra Malaysia大学Fatimah Md Yusoff教授をはじめとするスタッフ・大学院生・学生、LCであるオーストラリアのWollongong大学Kerrylee Rogers准教授、IAEAのDr. Sinh Van HoangおよびDr. Paul Morris、またプロジェクト参加に際しご協力いただいた外務省国際原子力協力室の関係各位に謝意を表します。



水垣 滋  
MIZUGAKI Shigeru

寒地土木研究所  
寒地水圏研究グループ  
水環境保全チーム  
主任研究員  
博士（農学）